

快挙!!

沼田町農業研究会 梶田浩孝さん（北竜2）

第56回全国青年農業者会議 プロジェクト発表 土地利用型作物部門で 農林水産省経営局長賞を受賞

先月号で紹介しました梶田浩孝さん（沼田町農業研究会所属）が、2月28日～3月1日に東京都で開催された「第56回全国青年農業者会議」で北海道ブロック代表として発表を行い、農業経営（土地利用型）部門において、全国8ブロック4作品の中から全国2位に当たる「農林水産省経営局長賞」を受賞しました。本町としては、数十年ぶりの参加であり、雪解けの遅い地域に求められる春先の農作業の省力化技術の確立という発表が高い評価を受けての受賞で、入賞は初の快挙です。



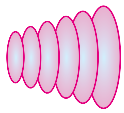
▲左から金平町長、発表者の梶田さん、補助者の山岡さん、農業研究会々長の澤田さん

この全国青年農業者会議は、20代～30代の農業青年を中心に1万名以上のメンバーが加盟している「全国農業青年クラブ連絡協議会」が、農業技術や農村生活環境の改善等について実践に基づいた研究成果を発表する場として、毎年開催しており今回で56回目を向かえる歴史ある大会です。

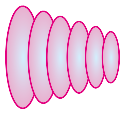


▲農林水産省経営局 佐藤就農・女性課長から伝達

梶田さんは「雪の多さで会場がどよめき、緊張の硬さが取れ発表することができました。沼田から一緒に参加した方々の協力もあって農林水産省経営局長賞をいただきました。他のブロックの発表も聞け、色々な栽培・取組みを知り得ることが出来た。この経験をこれからの沼田農業に役立てていきたい。」と抱負を語りました。



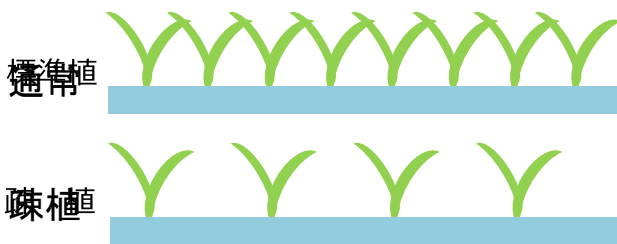
沼田農業を全国へ発信！



柵田さんが「第56回全国青年農業者会議」で発表した「省力化を目的とした水稲疎植（株間2倍）栽培の検討、評価... 導入へ」を簡単にご紹介します。

○本町の水稲は全道でも特に高収量の産地で、この3年は、全道1位の収量を誇っています。

一方、農家の戸数は減少傾向にあり、それに伴い1戸あたりの水田面積は現在15haを超える規模となっており、農作業の省力化の必要性が高くなっていることに着目して、長沼町で取組んでいる稲の疎植技術が、雪の多い本町で可能かを自分の水田で実践しました。



標準植：株間 14 cm で田植え

疎植：株間 28 cm で田植え

※田植えの株間を2倍程度にすることで、春の育苗面積、作業を半分にする技術です。

○試験結果

収量性

台地土：疎植栽培では、穂数が少なく、1俵程度の減収となった。

泥炭土：泥炭は地力が高いため、標準植と比較して、収量の差はなかった。

品質

疎植によりタンパク値は土壌条件にかかわらず高くなるが、株間を標準値の1.7倍、24cm以内にとどめることによりタンパク値上昇のリスクを抑えられた。

○導入のメリット

省力性：播種作業や育苗管理のための労働力の確保に加え、本町は雪が多く、ハウスを建てたまままで越冬はできない為、毎年、ハウスの設置が必要で、このことが重労働となっていて、規模拡大の障害になっている。疎植栽培によって、苗床面積が減少し、春先の農作業が省力化され、規模拡大が可能となる。

経済性：疎植栽培は苗床面積を低減させ、育苗資材と労働力の低減をもたらし、10aあたり7,000円の経費削減が見込まれた。

【沼田町農業研究会】

- ・目的：農業に関する課題解決のため研究、研修を実施し、成果を地域に還元する。
- ・設立年：昭和45年
- ・会員数：20名



▲大会に参加された沼田町農業研究会の皆さん